

院したことに触れつつ、
「また倒れて都民に迷惑を
かけることがあってはいけ
ない。早く体調を整えたい
と思った」と弁明。世田谷
都によると、舛添知事が
公用車で湯河原町を訪れた
のは、昨年4月1日から今
月11日までの約1年間で計
48回。おおむね毎週金曜日

「破断」
光学観測
装置
※JAXAの

「破断」
光学観測
装置
※JAXAの

語られぬ治療のやめどき

「薬価」危機

— 迫られる選択 —

3

だが、医療費のどこをど
う節約していくか。がんの
患者団体には、抗がん剤が
ターゲットになることへの
危機感が広がる。

「医療費のために日本が
沈むかのような話になって
いる。日本丸に大きな穴を
開けたのは、がん医療だと
いう話が出るかもしれない」
警戒しないといけない」

「得てして一番いい薬を
使おうというのが、今まで
のわれわれだった。しか
し、患者さんの状態に応じ
た形で、どうあるべきかを
考える時期に入った」
医師会はこれまで、医師
はベストの医療を選ぶべき
だと主張し、費用の話には
距離を置いてきた。横倉会
長の発言は、国頭氏の問題
提起を受けたもので、「コ
スト意識」を持った医療へ
の転換が迫られていること

その2日前、財務省の財
政制度等審議会で、日本赤
十字社医療センター化学療
法科の国頭英夫部長が、1
人当たり年間約3500万

患者自身の生き方重視へ模索



日本医師会の横倉義武会
長(右)は、「経済が右
肩上がりではない時代の
医療のあり方を考えてい
かなければ」と述べた
4月6日、東京都文京区
(道丸摩耶撮影)

肢があってもいい」

医療の受け方や日本人の

死生観を見直すべきだ、と

の声もある。日本尊厳死協

会副理事長の長尾和宏医師

は、治療には「やめどき」

があると考えている。

「高血圧、糖尿病、認知

症……。さまざまな薬にやめ

どきがある。しかし、今の

医療は走るばかりで、止ま

らない車みたいだ」

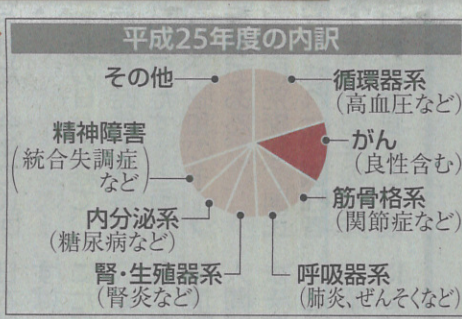
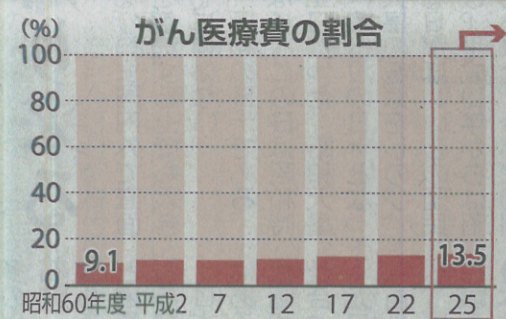
長尾医師には、60代の男

性で大腸がんのステージ4

の患者がいる。肺や肝臓に

転移があり抗がん剤治療を

行ってきたが、次第に効か
なくなってきた。別の抗がん剤
に変えても効果はない。
弱っていく一方の男性
は、長尾医師から「抗がん
剤をやめる選択肢もある
よ」と言われ、反対する息
子たちを説得して、抗がん
剤治療をやめた。
通院や副作用のストレス
から解放された男性はこの
春、花見や家族旅行を楽し
んだ。食欲も出てきた。
「この先どうなるかわから
ない不安もあるけれど、思



産経抄

江戸町奉行というのは、
今でいえば、東京都知事と
警視總監、東京地裁所長を
兼ねたようなポストだっ
た。警察の仕事のなかで、
放火、盗賊といった凶悪犯を取り
締まったのが、火付盗賊改方であ
る。池波正太郎さんの『鬼平犯
科帳』シリーズで、時代劇ファン
にはおなじみの役職であろう。役
目に励めば励むほど、金がかか
る。幕府から与えられた役料だけ
では、とても足りない。主人公の
長谷川平蔵は、家に伝わる書画骨
董を売り払って、密偵たちに配る
金を工面していた。池波さんはエ

人の生き方のように治療に
も引き際があつていい。
「やめどきは哲学に近
く、患者の生き方や状態で
変わってくる。その主導権
は医者にあると医師も患者
も思い込んでいるが、患者
の人生という物語の中で、
両者が対話しながら決めて
いくべきではないか」